

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4795700014 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 憲寿会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ときわ苑 | | |
| 所在地 | 沖縄県島尻郡八重瀬町字当銘370-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年9月3日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年12月12日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kairokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=4795700014-00&PrefCd=47&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ |
| 所在地 | 沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205 |
| 訪問調査日 | 平成24年10月12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該事業所は、母体施設の特別養護老人ホーム、各種サービス事業所を隣接しており、年間行事計画等(桜祭、ハーレー見学、ゲートボウル大会や納涼祭等)利用者やご家族、職員、地域住民との交流の一環として毎年開催しております。グループホームでは、季節に即した諸行事を始め、利用者の趣味や嗜好を考えた活動して、職員との共同による作品作りにも積極的に取り組んでおります。完成した作品は共同スペース等に啓示や展示をすることで自信や生きがいに繋がっていると思います。当該事業所職員一同は施設の理念の大切を基本に職員個々が、持てる技能を最大に発揮して入所者様が安心して生活できる家庭的で温かい事業所づくりを目指すと共に、にご家族様等への心的負担の軽減支援や外出を必要に応じて常に対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域や行政と日常的に連携している。受診時の送迎支援等の家族支援が行われ、家族と事業所の関わりが密であり、家族の面会も多い。利用者の状態変化には、専門医を紹介したり、受診支援することで利用者が落ち着き、利用者一人ひとりのペースでゆったりと過ごされている。入浴は個別対応で行われ、排せつ支援では改善に向けた事例もある。介護記録はシステムが導入され、ケース記録日誌に入力すると、データが「申し送り」、「排せつ」、「入浴」、「服薬」、「食事」、「バイタル」と個別項目に記載され、記録が管理されるシステムとなっており、事業所と法人の看護師が日常的に共有できる体制の中で支援されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年12月5日

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入所者様個々の尊厳を大切に暮らしやすい環境整備を心がけ、「入所者様が悠々と温々今日ん、あなたらしさを支援いたします。」事業所の基本理念を大切に目標としながら入所者様との関わりを大事にいたします。 | 「尊厳を大切に暮らしやすい環境の下・・・あなたらしさを支援します」という理念は開所時に職員で話し合って作っている。理念を玄関口に掲げ、利用者一人ひとりの生活リズムを大切に尊厳あるケアを職員間で心がけ共有している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 八重瀬町敬老会、桜祭り、ハーレー行事への参加や法人開催行事ゲートボール大会、本島縦断駅伝応援や近隣区の綱引き行事へ参加による地域交流を継続しております。 | ミニデイに相談員が参加し相談活動をしたり、地域行事や婦人会活動等に職員が協力している。事業所に利用者の知人や近隣の方も訪れたり、毎日散歩しながら地域の人と交流し、利用者が野菜をもらってくることもある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 八重瀬町から委託されているミニディや「島とーてい語らな」にグループホームの相談員が参加して、介護保険サービス、介護方法や相談助言を行っている。又、八重瀬町包括や婦人会からの依頼があれば積極的に協力している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、偶数月(第3水曜日)に開催しております。平成24年10月で第23回を数えることとなっております。入所者様の生きがいつくりや職員の技能向上や入所者様個々の尊厳を再認識する機会として重要であると認識している。 | 運営推進会議は行政と地域包括支援センターの職員、地域代表や家族も参加し、年6回開催されている。事業所からは、利用状況や事故、ヒヤリ・ハット報告、外部評価結果も配布されているが、会議録の一部が確認できない状況にある。 | 会議録は指定基準に基づき、2か年間保存しなければならない義務となっているため適切な管理が望まれる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会の開催にあたり、八重瀬町福祉課主幹や八重瀬町包括支援センター所長を委員としてお迎えして市町村内の高齢者状況やサービス等についても情報交換を継続しています。 | 事業所は運営推進会議の案内等を持参し、毎月行政に出向き、町内の高齢者の状況等について情報交換している。主任介護支援専門員が定期的に事業所を訪れ、地域包括支援センターの困難事例等についての情報交換や講師依頼にも応じている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関および勝手口には安全配慮からセンサーや鈴を設置しているが、就寝時間以外は施錠をしておらず入所者様が屋外に出られる状況としております。日常的な見守りや声かけで安否を確認しております。不穩行動の際は、付き添い対応とし、精神的に安定するよう本人の気持ちや要望を拝聴するよう支援している。 | 玄関はセンサーや鈴を設置しているが、施錠はせず、利用者が出ていくときは職員がつき添って対応している。契約書で利用者の権利として「暴力や虐待及び身体的・精神的拘束を受けないこと」も明文化し、リスクに関しては入所時に家族へ説明している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待等防止関連法は基より、それぞれの入所者様が当該事業所に入所されるまでの経緯を話し、本人や家族の心情等に思いを馳せ、入所後の支援策に反映している。又、定例会や担当者会議においても都度、入所者様やご家族への尊厳を厳守し、支援することを確認している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護および成年後見人制度について必要に応じて、会議等で勉強会を実施しており又、いつでも資料閲覧ができるよう他の資料等とファイルして常設しております。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所契約時は、入所予定者やご家族に対して重要事項説明書の際に内容を読み上げた後に具体的な対応方法や確認事項をわかりやすく説明を加えて説明するようにしている。項目ごとに理解・納得について確認している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入所者様やご家族からの要望を来苑時や訪問等で依頼や改善事項を聞き取りし、それを基に事業所及び職員が改善策を検討して、可能な限り要望に応えられるようにしている。 | 利用者は全員意思表示ができ、意見は直接聴き取り、そばを食べに出かけたりしている。家族の意見等は運営推進会議や面会時に聴く機会としている。家族の要望で受診時の送迎や専門外来の受診支援が実施され、法人の看護師が毎日事業所を訪れ利用者の健康管理をしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の福祉課会議、グループホーム会議において意見提案と情報等の共有や確認の機会としています。 | 毎月の会議で職員の意見等を聞き、職員の要望でパート職員が採用され、また、台風時は夜勤2人体制となっている。余暇活動の充実を求める意見で、職員判断で活動できるよう配慮された。職員異動時の利用者への配慮として新旧職員の同時勤務を1か月程度実施している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 改善点などを提案できる機会を設け、各自が向上心を持って働けるようにしています。前回の調査では、有給休暇の取得が困難でしたが、パート職員の採用で比較的有給休暇の取得が容易となりました。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は、研修や各種の勉強会等の参加を希望する事ができ、更には多くの研修を受ける機会を確保できるようにしています。定期的な職員全体会議等の内容を募集し、職員の意見や要望を活かし、講師を招く等して職員の研鑽に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 沖縄県グループホーム連絡会に加入し、勉強会や施設見学会などにより、多くの情報交換や交流活動に参加をし、毎月のグループホーム会議で報告や連絡会主催の研修等への派遣を実施している。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 困っている事や不安に思っているように感じて相談依頼があれば、居室等での面談を都度行っている。又、ゆっくり聴いてあげられるように心がけています。日頃の言動や行動及びバイタルチェック等で変調を感じる等を確認したら都度、声かけで確認することを心がけています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 互いの信頼関係を築くのはとても大事なことだと思います。感じている事、不安に思っている事を気兼ねなく伝えられるようにしています。初期段階では、ご家族のお話を拝聴することから実践し、お話や思いから必要な事柄の情報を把握し思いや感情に共感する事を心がけております。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族が必要としている事、又、気づかない事等、お話を拝聴しながら問題を把握するように心がけ、根本的な問題解決や軽減支援の助言を行いながらの対応に当たっております。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常的な家事等を個々の残存機能に応じ、入所者様個々が役割を提案して、入所者様と職がと一緒に共同作業や余暇活動を実践しております。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話連絡による状況報告や必要に応じて、面談時間をつくり入所者様の状況に応じた支援策を提案し、一緒に支援策を考える機会を持って、を実践しています。又、ご家族からの提案や不安に思っている事を解決する機会とし双方方向の関係構築の役割を意識しております。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ふるさと訪問行事を実施。懐かしい場所を尋ねたりする事で、これまで継続していた馴染みの関係が途切れないように支援しています。ご家族、親族や友人の面会があった際は、写真撮影をして居室に飾ることをしている。 | 利用者は毎年ふるさと訪問（自宅パーティー）の送迎支援を受け、その日は家族だけでなく親戚も参加して交流している。地域での関係性は家族や親戚等から得て、定期受診の送迎時に馴染みの場所を訪れることもある。年賀状の支援も実施しており、知人に出す利用者もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の営みを通して、お茶時間、食事等の時間を共有することで会話の機会を持つ等で結束感が持てるよう支援している。又、誕生会やおやつ会、余暇の活動等においてひとり一人の個性を大事にしながらも、孤立感がないよう同士の関わる機会をつくれるように支援しています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期療養等の入院や系列特養等への入所で退所となっても利用者様を定期的に訪問し、経過の把握や声かけを継続しています。又、ご家族にも同様に声かけを継続して退所後も相談等に対応し、関係性の継続に努めております。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所者様、個々の個性を大切に、その人らしい暮らしの希望や思いを把握できるように努めています。又、日頃から心配事や不安を感じることはないかについて、声かけ等を心がけています。 | 利用者の思いや意向は、居室担当者が本人に直接確認して把握し、毎月の会議で担当者から状況報告があり共有している。利用者は全員意思表示可能で、「家族と話がしたい」と希望する利用者には、直接家族と電話で話をしてもらう等の支援をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や友人知人が訪ねて来た時には、会話の中から生活歴等を情報収集し、今後の生活支援に活用できるようにしています。又、入所者様との関係性を職員が共有することで、会話の種となり入所者様の喜びに繋げている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常的な生活や介護支援において、心身及び身体状況に応じて、日々対応に当たっている。又、健康管理や心身機能の状態、生活の様子を日誌、個人記録に記載し、今後の暮らしや支援の方向性の把握資料として活用している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画はサービス担当者会議で、入居者や家族、必要時は医師も参加して検討し、入居者の状況の変化時は計画を見直している。「ケース記録日誌」から申し送り共有する。日常の関わりで捉えた、入居者の不安や思いを介護計画に反映して支援に当たっている。 | 専門外来の受診支援や定期受診の送迎支援等、個別の介護計画である。計画の見直し及びモニタリングは半年に1回で、随時見直しは家族と相談しながら担当者会議で検討し変更している。介護計画はシステム入力され、介護日誌で職員と法人看護師が共有し支援している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活状況や介護実践を通しての様子や気づきをケース録や介護日誌に記載し、介護支援の実践に活用している。又、入所者様個々の心身状況に合わせた支援体制の構築や介護計画の見直しの際の資料としている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入所者様の心身の機能に応じて、必要に応じて業務内容を変更して支援したり、ご家族様の要望や希望にそって事業所や職員が対応できる事は柔軟に対応する事を心がけております。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 病院等の地域支援連携室や八重瀬町包括支援センター及びた事業所からの問い合わせや必要に応じた情報を提供したり、入所相談者等への介護や介護保険サービス利用への助言を提供しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者はそれぞれかかりつけ医を持っており受診時には、本人の健康状態や生活状況についても情報を提供すると共に同行受診を行って直接かかりつけ医への面談で状況報告や対応時の状況の説明等をしている。 | 利用者はこれまでのかかりつけ医を職員の送迎で定期受診し、専門医受診時は家族と共に職員も同行して状態を説明している。家族が同行できない時は、職員で対応し結果は電話で報告している。毎朝、法人の看護師が来所し、利用者の健康チェックを実施している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 同一事業所(特養・デイサービス)看護師の協力あり、利用者の体調変化が生じた時の処置及び必要な医療への紹介や助言等を仰ぎ、輪番でバイタルチェックやインスリン注射等の医療支援を提供している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 本人様やご家族が不安にならないよう担当医師や医療スタッフとの情報交換やご本人やご家族と医療スタッフとの橋渡しを積極的に支援しています。又、カンファレンス等へ参加しご本人、ご家族の要望も積極的に伝えられるよう支援しています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者が重度化になった場合は、ご家族様と話し合いの場を持ち、意向があれば母体施設への紹介などの支援を行っています。 | 重度化等への事業所の方針は入居時に伝えている。共同生活が出来なくなったり、自力で食べられなくなった場合、利用者や家族に説明し同意を得た上で、安心して次の施設へ移れるよう、法人特養や他の施設を紹介している。急な状態変化には、事業所でも対応することもある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員会議等で応急処置の勉強会や訓練を定期的を受けて、救急事態に対応できるようそなえている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2自主訓練、消防立ち会いを実施。火災や地震、水害等のビデオ勉強会を実施しております。平成24年から近隣区長の協力で火災や地震水害時等の相互で協力すること確認致しました。 | 避難訓練は地域の方も参加し実施され、消防署への通報訓練及び設備の点検、隣接法人施設の避難訓練に職員の参加もある。また、スプリンクラーや一斉通報装置も設置され、事故対応マニュアルを整備し、利用者の安全に配慮し、台風時は夜勤2名体制である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人を尊重し、言葉かけには意識を持ちながら日々の対応に心がけるようにしています。 | 職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、ケアする際「お手伝いしていいですか」等、同意を得ながら行っている。同性介助はなるべく行うようにし、開いているトイレのドア等は、その都度さりげなく閉めている。「ダメ」等、利用者が傷つく言葉を使わない対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常的な生活で入所者様が希望する事、依頼事項や遠慮したいとの要望の表出があれば都度、要望に沿うように支援している。ご家族等との調整が必要な際においても、連絡調整をおこなって対応方法を伝えてできるだけ早急に対応できるよう支援してる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | テレビや沖縄芝居を日課としている方、散歩やドライブ等行っている。歌っている時の表情が印象的な方、入浴が苦手な方など利用者ひとり一人個性に合わせた支援を基本に行っています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容師の経験を持つ職員がおり、本人様やご家族の意向を確認しボランティアで行っています。又、女性は入浴後はヘアークリーム等で整髪を行い、男性は髭剃りをする等、整容支援を継続しております。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 母体施設で調理、利用者と職員がテーブルを囲んで一緒に食事をとる。会話も盛んである。食事の配膳から後片付けも一緒に行っています。 | 利用者は全員普通食で、お汁と主食は事業所で作り、副食は3食とも法人からの配食である。法人の方針で職員は利用者と同じ食事を一緒に食べている。利用者はおやつ作りの野菜洗い等に参加している。毎年、職員と利用者が一緒にムーチャーを作り、利用者家族にも配っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事摂取量の記録、水分量の確認を行い、ひとり一人の状態把握に努めて支援を行っています。又、水分摂取支援として複数の飲み物を準備して嗜好によって選択できる用意を常にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の歯磨きを徹底しています。声かけ助言や介助が必要な方にも口腔ケア支援を徹底しております。（夕食後はイソジンうがい薬を使ってケアを行い、義歯は洗浄液に付けて置きます。） | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用して入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や見守りを行っている。リハビリパンツから布パンツとパットで対応可能な入居者について、家族と話し合いオムツ外しに取り組んでいる。失敗した場合は、さり気なく言葉をかけ誘導し清潔保持を支援している。 | 職員はメモ帳を携帯し、ケア時の気づき等を書いている。排せつチェックは随時パソコンに入力し、職員間で共有している。入居当初、失敗していた利用者の手招きや声での合図、トイレに行きたい時のしぐさ等を把握し、職員が声かけ等の支援を継続した結果、排せつの失敗が改善した事例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 母体の管理栄養士の食事献立の工夫、水分量の確保、日中の活動機会により、便秘の予防ができるようにケアを行っています。又、食物繊維できた補助職や野菜ジュース等も定期的に納品して飲用していただき喜ばれております。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個人の希望や外出のタイミングを見ながら入浴が楽しめるようになっていきます。介助が必要な方については一日おき行なっています。又、入所者様からの希望あった際は、毎日入浴にも対応している。 | 入浴は週3回午前中としているが、半数の利用者は毎日入浴や足浴をしている。同性介助を基本とし、男性職員が行う時は同意を得ているが、同性を希望する利用者には、女子職員で対応している。冬場は更衣室や浴室を温め、入浴後はクリーム等でケアしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人の部屋があり室温の完備、窓には遮光カーテンを取り付け、電動式ベッドの設置。利用者が安心して過ごせるようになっていきます。休息の際は、居室の扉を閉める等、静かに過ごせるよう配慮しております。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診時には薬の説明書を添えてもらい、職員は服薬情報を確認しています。利用者の体調の変化にも留意を行っています。又、個々の処方薬はそれぞれに専用ケースを準備して保管管理しております。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 書道や絵を描いたり作品づくりに熱心な利用者がいます。意向を伺いながら職員と一緒に活動を楽しまれています。又、入所者様の楽しみ、生きがい、等を大切に考え、職員が積極的に三味線や琉躰等を練習し、入所者様と楽しみを共有できるように個々が努力を継続しております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブや買い物、近隣までの散歩を希望される利用者があり支援を行っています。ご家庭での冠婚葬祭や旧盆帰省等について外出支援として送迎対応等の支援サービスを積極的に行っております。 | 天気の良い日は近くの公民館まで散歩に出かけている。ドライブを楽しんだり、利用者の意向で本人宅まで外出等の送迎を月2、3回定期的に実施している。事業所は、これまでの生活継続として、正月や旧盆は自宅への送迎支援をしたり、孫の結婚式等にも参加できるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入所者様より、金銭に関わる要望があった時には、ご家族へ連絡し来苑をお願いする等事前調整を行っております。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 新年には本人様より御家族宛へ年賀状を出していますが、手紙のやり取りは殆どありません。家族へ電話したいとの要望時は、常時対応できるようにしています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室内は明るく、リビングは利用者と職員がゆったり過ごせるように広さを確保。明るく落ち着いた雰囲気の基本にゆったり過ごせる空間を提供しております。又、壁には共同の作品や絵画が掲示すると共に季節感を意識してのレイアウトを入所者様と職員が一緒に行っている。 | リビングは季節の落ち葉やハロウィン等が飾られ、また、一人ひとりに合わせた足置きも準備されている。畳間に布のタペストリーと三味線が置かれ、廊下に利用者の作品コーナーもある。共用空間は清潔感があるが、浴室入口に掃除道具がそのまま置かれ、安全面で気がかりである。 | 入浴時の安全面から、浴室入口に置かれている掃除用具の片付け場所の確保が望まれる。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 広いリビングでは利用者同士が談笑したりテレビ観賞される。新聞や本、雑誌等を見られるようにテーブルや椅子を設置しています。又、馴染みの入所者様同士が、相互の居室を訪れて雑談を楽しまれております。その際は、居室にお茶や菓子をお届けしたりしております。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物を自宅から持ってきて使用される方は一部の利用者だけ。ベッドやタンス、洗面台の設置があるので家族は満足しているようです。現在部屋の装飾に工夫をしています。 | 居室はベッド、タンス、洗面台が設置され、担当職員がシーツ交換や掃除、タンスの整理等を行っている。家族が来所した際は、利用者と一緒に写真を撮り、アルバムにしたり、居室に飾ったり等、利用者一人ひとりがゆったりと過ごせるよう気配りしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室、トイレや浴室にはわかりやすい工夫や表示で目印を付けて対応している。壁には日めくりカレンダー、時計を設置し確認できるようにしています。残存機能を損なく事なないように常に支援している。 | | |